

第6分科会

家老 洋 長岡市議会議員・園芸福祉にいがた代表

■プロフィール■



1957年新潟県長岡市生まれ
宇都宮大学卒業後、1年間ドイツの野菜農家で農業実習、その後国際農業者交流協会職員として農業後継者の育成事業に携わり、1991年から7年間欧州駐在員としてドイツボン市に駐在しドイツ、デンマーク、スイス、オランダを範囲に活動。帰国後、長岡市に戻り市議会議員になる現在3期目。協会理事、新潟県組織「園芸福祉にいがた」代表

■分科会テーマ■

第6分科会 『支える』 住む人たちが協力して誇れる地域社会づくり

■発表テーマ・内容■

『経済福祉から環境福祉へ』 お金があれば幸せになれるという考え方、時代からから、自然環境、社会環境、住環境などの充実により幸せになれる時代へ！

国も地方も財政難で、これ以上福祉にお金を出すことが出来ない現在、そして将来において考えなければならないのは、小さいが一人一人の市民の力、そして地域の力を発揮することで、これからの福祉を支え向上させていくことが重要だと思います。

私の住む長岡市は、平成16年10月23日に中越地震、そして去る7月16日には中越沖地と2度に亘る大災害に見舞われ、多くの家屋が被害を受け、避難所や仮設住宅での生活を余儀なくされた方々が大勢いました。そんな時一番力を発揮したのが「地域の力」でした。行政主導で行われた支援・サービスは公平・平等ばかりが最優先されるため、住民達の満足度は低かったようです。しかし、地域の人たちが自主的に立上げた組織に於いては、それぞれが力を出し合い、スムーズな運営・活動がなされ復旧・復興も早く進んだように思えます。

そのような市民の力・地域の力を福祉や社会活動の現場で発揮させるための運動を起こすには、これまでのような行政主導型のトップダウン的な手法ではなく、住む人たちが協力し合って誇れるまちづくり、社会地域づくりに取り組むことが重要だと思います。

そのためには、それらの運動を担う人材を育成していくことが第一であり、そのひとつの手法が、当協会が実施している初級園芸福祉士の養成(講座)事業であると思います。

園芸福祉活動は、園芸活動を通して皆で幸せになろうということで、園芸福祉士という人材を核にコミュニティを主体にした活動を展開しています。全国には現在園芸福祉士の方々が地域の核となり、園芸福祉活動を通じて人の和、組織の和を広げ、そこで住む人、働く人たちの絆は深まり、お互い協力し合い、満足のいく、そしてお金のかからない福祉が実現されております。

全国全ての町内会・自治会に最低2人の園芸福祉士を配置し、それらの運動を推進することを目的にがんばりたいと思っています。

まずは、私の地元新潟県からこのことを全国に発信していきたいと思っています。

田内 一郎 岐阜県農産園芸課長

■プロフィール■



1952年 生まれ
1972年 岐阜県へ奉職
2003年 園芸特産振興室 技術課長補佐
2004年 県産品振興室 管理監
2005年 中濃地域郡上農業改良普及センター所長
2007年 農産園芸課長

■分科会テーマ■

第6分科会 『支える』 住む人たちが協力して誇れる地域社会づくり

■発表テーマ・内容■

岐阜県における園芸福祉への取り組み

目的

岐阜県では、地域づくり、教育、健康維持など幅広い分野において、園芸の効用を活用して、住民が生き生きと暮らせる「確かな明日の見えるふるさと岐阜県」を実現するため、園芸福祉に取り組んでいます。

経緯

- H12 園芸療法の効果、手法について調査研究する岐阜県園芸療法研究会を設置
- H14 園芸の効用を活用した幅広い活動を促進するため、園芸療法から園芸福祉へ移行
 - 〃 岐阜県園芸福祉協議会を設置し、サポーター養成及び活用支援を通じて園芸福祉を推進
 - 〃 園芸福祉サポーター養成講座を開始
- H15 園芸福祉サポーターの資質向上、連携強化を進めるためのフォローアップ研修会を開始
- H17 園芸福祉サポーターの組織化への側面的支援 (H18.8 NPO 法人岐阜県園芸福祉協会設立)

現状

- ・園芸福祉サポーター養成講座の開催
- ・園芸福祉サポーター認定数 352名 (H19.3.31 現在)
- ・活用希望調査結果に基づくサポーターの紹介
- ・サポーター活動ヶ所 202ヶ所 (高齢者施設、地域、障害者施設、病院など)
- ・サポーターを対象としたフォローアップ研修会開催

課題

- ・園芸福祉への理解が十分進んでいない
- ・地域ごとの園芸福祉サポーターの数にバラつきが大きい

今後の取り組み

- ・県内関係機関との連携強化による園芸福祉の普及啓発
- ・より実践的な養成講座及びフォローアップ研修会の実施
- ・NPO 法人岐阜県園芸福祉協会との連携強化

増野 和男 駒ヶ根市産業振興部長

■プロフィール■



昭和 25 年生まれ 昭和 48 年駒ヶ根市職員となり、商工観光、財政、区画整理の業務など担当し、平成 16 年 4 月より産業振興部長となり、現在にいたる。

平成 15 年度に、市施行土地区画整理事業の地域づくりの一環として、園芸福祉の取り組みをはじめた。

■分科会テーマ■

第 6 分科会 『支える』 住む人たちが協力して誇れる地域社会づくり

■発表テーマ・内容■

駒ヶ根市における園芸福祉事業の取り組みの経過

平成 15 年 4 月 花と緑のサポーター養成講座を開校
受講者が初級園芸福祉士の資格に挑戦

平成 16 年 4 月 花と緑と水の会が設立される
以後 病院、福祉施設において活動を継続

中心市街地における園芸福祉事業の展開

平成 17 年 4 月 中心市街地において広小路商店街女性会を中心にサフィニア等をアーケードに飾り付け事業展開が始まる

事業継続中で中心市街地の全商店街に活動が広まる

現在 街なか居住の施策展開による再開発事業を計画中であり、園芸福祉事業をこの中に取り込んでいきたい。

福森 讓 名張市産業部長

■プロフィール■



昭和25年生まれ

昭和50年名張市職員となり、主に農林振興業務を担当。今年4月より産業部長となる。

平成14年度、名張市が園芸福祉の取り組みを始め、名張市園芸福祉普及推進協議会を発足させた時、農林振興課長として係わる。

■分科会テーマ■

第6分科会 『支える』 住む人たちが協力して誇れる地域社会づくり

■発表テーマ・内容■

名張市の園芸福祉の取り組みの経過と現状

●名張市園芸福祉普及推進協議会

名張市において園芸福祉活動を推進していくため、平成15年3月25日に社会福祉協議会、農協、区長会、老人クラブ、福祉施設、教育委員会、小中学校校長会、ボランティア協議会、農業団体等16団体で構成する名張市園芸福祉普及推進協議会を設立した。協議会では、園芸福祉の普及・啓発を目的として人材の育成、研修会・講習会の開催等を行っている。

【人材育成】

○園芸福祉サポーター養成

ボランティアで市内の医療・福祉施設、学校、地域等で花き及び作物栽培等を行う園芸活動サポーターを養成。園芸福祉の基礎・活用・実践について3回の講座を実施し、全て受講した者を名張市園芸福祉サポーターとして認定し登録。

－実績－

	受講者数	認定者数	登録者数（現在）
平成15年度	138名	118名	
平成16年度	39名	29名	70名
平成17年度	25名	23名	
平成18年度	64名	58名	54名
計		228名	124名

【実践活動】市に登録した園芸福祉サポーター及び指導員のうち現在148名が名張市園芸福祉ボランティアとして、地域、教育、福祉、農園芸の4つのグループに分かれて活動を行っている。

田村 亨 中部電力(株)環境・立地本部立地部

立地グループ課長 (地域振興担当)

■プロフィール■



1986年 早稲田大学政治経済学部政治学科卒業
同年 中部電力入社、(財)中部空港調査会、
(社)中部開発センター、岐阜県板取村等に勤務。
主に、地域開発、地域振興、まちづくり等の調査・計画に従事し、2003年7月から現職。
プライベートでは、NPO 法人花と緑と健康のまちづくりフォーラム理事・事務局長、初級園芸福祉士、バイクトライアル世界選手権日本大会オブザーバー、市民大学白壁アカデミア、NPO 法人水とみどりを愛する会会員、環境福祉学会会員等で細々と活動中。

■分科会テーマ■

第6分科会 『支える』 住む人たちが協力して誇れる地域社会づくり

■発表テーマ・内容■

【テーマ】

「NPOは、CSR活動の良きパートナー
～フラワーガーデンでのCSR活動の展開～」

【内 容】

- 名古屋港ワイルドフラワーガーデン“ブルーボネット”の概要
- 来園者サービスへの思いと園芸福祉との出会い
- ブルーボネットでの園芸福祉活動の展開
- 次なるステップへ～愛知県下への展開～
- 仲間づくりと勉強会
- 企業の限界とNPOの可能性
- NPO設立と活動の展開